

令和2年度一橋大学学位記授与式 祝辞

令和3年3月19日
楽天株式会社
代表取締役会長兼社長
三木谷 浩史

この春、一橋大学を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。三木谷 浩史です。皆さんの門出に際し、こうしてメッセージを贈る機会をいただいたことを嬉しく思います。

私も皆さんと同じように一橋大学で大学生活を送り、新卒では銀行に入行しました。一橋大学での4年間というのは勉強もさることながらテニス部のキャプテンとして部活もし、充実した4年間でした。そのときにつけた様々な知識、友人や先輩のネットワーク、社会的な見分がその後の自分を支えてくれたと思っています。

私が卒業した昭和63年はまだバブルの絶頂期。Japan as number 1と言われ、世界の企業の時価総額トップ50のうち、ほとんどが日本の企業が独占するという時代でした。

今やGAFAM+マイクロソフトの時価総額は、東証一部上場企業すべての時価総額を上回っており、また、テスラ・モーターズの時価総額がそれ以外の自動車メーカーのすべての時価総額を合わせても上回っているというような大きな社会変革、それこそすべての価値観が変わり、単位が変わり、すべてのプロセスが変わっていく。これはなにもビジネスだけではなく、あらゆることが変わる時代に今突入しているのだらうなと思っています。

過去、日本が大きく変わった時と言うのは2回あります。ひとつは明治維新。ふたつめは世界第二次大戦の終戦です。この2回は外的な要因があり、外圧によって日本は変わった。今回問題なのは、残念ながら外圧はなく、このままいくと、日本はどんどんと世界から取り残されていくというのが現状です。

私が卒業したころは、日本のGNPは世界の15、6%あったと言われていますが、皆さんが40、50になり、いわゆるビジネスの一番絶頂期に達した時は、日本経済の規模は世界経済規模の3%、あるいはそれ以下になってしまっているのではないかと考えています。

一橋大学で私がすごく誇りに思っているのは、そのモットーのCaptains of Industryというミッションです。皆さんも、大半の方が大きな企業に就職されると思いますが、それに甘んじることなく、常に開拓精神とイノベーションのマインドセットを忘れずに、新しい日本のリーダーとなるべく頑張ってもらいたいと思っています。そのためには、一橋出身の偉大なる経済学者である中山先生がおっしゃっている通り、「人生一生勉強」です。卒業された後も様々

な分野の知識を蓄積するとともに見分を広げて、新しい日本のリーダーになっていただきたいと思っています。

今日はコロナということもあり、このようなビデオでのスピーチとなりましたが、いずれちゃんと face to face でお会いする機会もあるのかなと思っていますし、楽しみにしています。これからの皆さんの益々の成長と発展を祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。